

(10) 書写教育研究会

会 長 山沖 美保（下田中学校）
副会長 池上 みどり（大用小学校）
事務局 大原 景子（具同小学校）

1. 研究主題 「教育活動に活かせる書写教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和4年 8月5日（金）	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：小筆でスキルアップ ～身近な書編～ 講師：小花 典明 (家庭児童相談所)	東山小学校	13名参加

3. 今年度の取り組み

今年度も「教育活動に活かせる書写教育」というテーマを設定し、講師はこれまでもお世話になっている小花 典明先生にお願いした。計画を立てる際、「生活の中で身につけた書のスキルを学校現場でも生かしていきたい」という希望があり、夏季研修会では「小筆でスキルアップ～身近な書編～」の研修を行った。身近にある筆ペン（中字）を使っの研修では、軸、全体のバランスを大切にすることに気をつけながら、まずはウォーミングアップとして新聞紙に名前の練習をした後、熨斗紙や封筒に書き、会員みんなで鑑賞し合った。



4. 今年度の成果と課題

気軽に使用できる筆ペンを使用し、新聞紙を使って練習することで、気負いなく、楽しんで書に向かうことができた。そして、日常で活用できる慶弔時の名前書きを練習し、軸を意識して熨斗紙や封筒に字を書くことができた。また、研修の最後にプレゼントしていただいた、小花先生直筆「一日 一筆 一分間」の言葉入りのしおりを、各自が手帳や備忘録に挟み、毎日の生活の中で書に向かう意欲を持ち続けている。日々の生活の中で筆を執る場面を増やしていくことで、書くことに慣れていき、学校現場での書写教育活動にも生かしていきたい。

<小花先生より（意識すること）>

- ・軸を大切に
- ・リズム感を大切に 早いスピード&ゆっくりスピード
- ・字の強弱
- ・スタート（書き始め）とゴール（書き終わり）、特に最後の字がポイント
- ・全体のバランス（書く前に頭の中でイメージ化）
- ・お手本の模倣を意識しすぎると持ち味がなくなる
- ・字体を気にせず、自分の癖を長所に、思い切りよく
- ・書き終わった時に、疲れ感ではなく達成感になるように
- ・学校現場などで字を書く場面で、人に見られていると緊張するが、書き続けていると慣れてくる
- ・白い紙に書くのは緊張するが、その緊張感は大切にしつつ、練習を続けることで慣れてくる

<感想>

- ・「形をととのえる」ととらわれず、漫画っぽく書いてみて楽しめた。
- ・強弱が出せるように書きたいと思い、集中して書けた。
- ・くせ字でも味が出ていると褒めていただき、自尊感情が高まった。子どもたちに指導する時も、褒めることを意識したい。
- ・ユニバーサルデザインの視点で教室掲示の学級目標は印刷だが、子どもたちと1画1画筆で書いたものを廊下に貼ってある。
- ・以前の研修会で小花先生に言われた「頼まれたら機嫌よく書く」を実践している。これからも機会がある時は自ら進んで書くようにしたい。
- ・昨年度の研修会で勉強してから、表彰状を書き始めた。今年は卒業証書を書こうと思う。生徒の名前も練習している。

